

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3142053号
(U3142053)

(45) 発行日 平成20年6月5日 (2008.6.5)

(24) 登録日 平成20年5月14日 (2008.5.14)

(51) Int.Cl.

F 1

B 6 5 D 47/08 (2006.01)

B 6 5 D 47/08

M

B 6 5 D 43/22 (2006.01)

B 6 5 D 43/22

A

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号 実願2008-1243 (U2008-1243)

(22) 出願日 平成20年3月4日 (2008.3.4)

実用新案法第11条において準用する特許法第30条第3項適用申請有り

(73) 実用新案権者 500561137

大和物産株式会社

奈良県五條市住川町1313番地

(74) 代理人 100077470

弁理士 玉利 富二郎

(74) 代理人 100067116

弁理士 立川 登紀雄

(72) 考案者 泉 宏樹

奈良県五條市住川町1313番地 大和物産株式会社内

(72) 考案者 泉 暁

奈良県五條市住川町1313番地 大和物産株式会社内

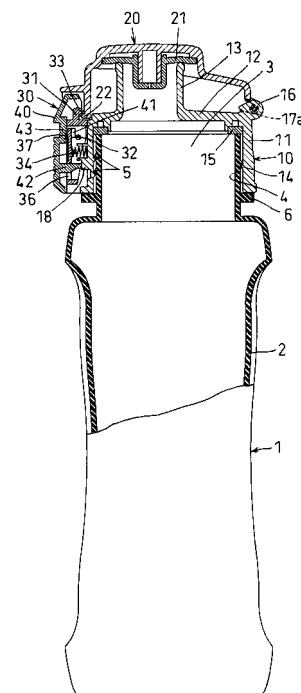
(54) 【考案の名称】 飲料容器

(57) 【要約】

【課題】 蓋をロック状態から開放するまでを1つの部材に対する1回の簡単な動作で行うことができる飲料容器を提供する。

【解決手段】 容器本体2の開口部3に栓体10を装着し、栓体10を閉鎖又は開放する蓋体20を設けた飲料容器において、栓体10の外面部に軸支されて一方端に設けた係合爪33が閉状態の蓋体20の係合受け部22と係合状態及び係合解除状態とに回転する係合部材31の外側面に上下摺動可能なスライドボタン40を設け、スライドボタン40が上動位置の時は、スライドボタン40に一体に設けられた突出片42が、栓体10側のストップ18に当接して、係合爪33と係合受け部22とが完全に係合され閉蓋状態となり、スライドボタン40が下動位置の時は、突出片42がストップ18に当接せず、前記スライドボタン40を係合解除方向へ操作することにより、係合爪33と係合受け部22との係合が解除され開蓋状態となる構成とした。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

上部に開口部 3 を有する容器本体 2 と、容器本体 2 の開口部 3 に装着され天板 1 2 に飲み口 1 3 を有する栓体 1 0 と、栓体 1 0 に対してヒンジ 1 6 を介して回動可能に装着され前記飲み口 1 3 を水密状に閉鎖又は開放する蓋体 2 0 とからなり、前記蓋体 2 0 を開方向に付勢させる開放機構 1 7 と、前記蓋体 2 0 の閉状態を保持するロック機構 3 0 とを有する飲料容器において、

前記ロック機構 3 0 は、前記蓋体 2 0 に設けられた係合受け部 2 2 と、前記栓体 1 0 の外面部に軸支されて一方端に設けた係合爪 3 3 が閉状態の蓋体 2 0 の係合受け部 2 2 と係合状態及び係合解除状態とに回動する係合部材 3 1 と、前記係合部材 3 1 の外面側に対して上下方向に摺動可能に取り付けられたスライドボタン 4 0 とからなり、

前記スライドボタン 4 0 が上動位置の時は、スライドボタン 4 0 に一体に設けられた突出片 4 2 が、栓体 1 0 に設けたストッパ 1 8 に当接することにより、係合部材 3 1 の係合爪 3 3 と蓋体 2 0 の係合受け部 2 2 とが完全に係合され閉蓋状態となる一方、スライドボタン 4 0 が下動位置の時は、突出片 4 2 がストッパ 1 8 に当接せず、前記スライドボタン 4 0 を係合解除方向へ操作することにより、係合部材 3 1 の係合爪 3 3 と蓋体 2 0 の係合受け部 2 2 との係合が解除され開蓋状態となるようにしたことを特徴とする飲料容器。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、水筒などの携帯用の飲料容器に係り、特に、使用時に蓋体を 1 つの動作で開くことのできる飲料容器に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、容器本体の上部開口に装着される口栓部材と、該口栓部材にヒンジにて回動可能に連結され、口栓部材の天板に重なった際は開口する注出口を液密に閉蓋状態とすると共に口栓部材から離れた際は注出口を開蓋状態とする蓋部材とを備えた飲料用容器の栓体では、ヒンジと反対側に蓋部材の閉蓋状態の保持を行うロック機構を設けたものがある。

【0003】

このロック機構は、例えば、口栓部材に設けられるシーソー式のロックボタンを操作し、一方に回動させると蓋部材に係合するロックボタンに設けた係合片が係合を解除する方向に移動し、蓋部材が開蓋状態となるようにしてあるのが一般的である。

【0004】

ところで、ロック機構には、飲料容器を匏等に収納している場合等において、不用意に蓋部材が開いてしまい、内容物が漏れてしまうことがないように、閉蓋状態を保持するのみならず、簡単に開蓋状態へ移行しないようにロックボタンが動かないよう固定させる別途機構が設けてある。

【0005】

このロック機構について、蓋部材の回動端に設けられた係合片と、口栓部材の外面部に設けた軸部材により軸支されて口栓部材の内外方向に回動可能に取り付けられ、上部に前記係合片が係脱可能な係合部を有するとともに、該係合部を前記係止片との係合方向に付勢する付勢手段を有するロックボタンと、口栓部材の外周壁にスライド可能に設けられ、前記ロックボタンの下部と口栓部材の外周壁との間に挿入されたときに前記ロックボタンのロック解除方向への動きを規制するストッパ片と、該ストッパ片の挿入位置と非挿入位置とに保持される係止部とからなるスライド式ストッパとからなる構成を採用したものである（例えば、特許文献 1 参照）。

【特許文献 1】特開 2 0 0 5 - 1 9 3 9 4 4 号公報

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0006】

10

20

30

40

50

しかし、特許文献 1 の構造のものは、開蓋状態とさせる際には、スライド式ストッパを下方にスライドさせてから、ロックボタンを内側に押すという 2 つの異なる部材へそれぞれ異なる操作を行う必要があるため、スライド式ストッパやロックボタンを目視するか指の感触によってそれぞれの操作部位を探り当ててから、異なる操作をしなければならず、片手の指 1 本でこれらの操作を行うのは容易ではなかった。

【0007】

また、ジョギング、ウォーキング、サイクリング等の運動途中で飲料容器を使用する際は、蓋部材の複雑な開放操作に気を取られてしまい、操作途中で道路上の障害物や路面の変化に気がつくのが遅れて衝突や転倒してしまうなどの危険を生じることもあった。

【0008】

そこで、本考案は、蓋をロック状態から開放するまでを 1 つの部材に対する 1 回の簡単な動作で行うことができ、操作性に優れた飲料容器を提供することを目的としている。

【課題を解決するための手段】

【0009】

上記の目的を達成するため、この考案は、上部に開口部を有する容器本体と、容器本体の開口部に装着され天板に飲み口を有する栓体と、栓体に対してヒンジを介して回動可能に装着され前記飲み口を水密状に閉鎖又は開放する蓋体とからなり、前記蓋体を開方向に付勢させる開放機構と、前記蓋体の閉状態を保持するロック機とを有する飲料容器において、

前記ロック機構は、前記蓋体に設けられた係合受け部と、前記栓体の外面部に軸支されて一方端に設けた係合爪が閉状態の蓋体の係合受け部と係合状態及び係合解除状態とに回動する係合部材と、前記係合部材の外面側に対して上下方向に摺動可能に取り付けられたスライドボタンとからなり、

前記スライドボタンが上動位置の時は、スライドボタンと一体に設けられた突出片が、栓体に設けたストッパに当接することにより、係合部材の係合爪と蓋体の係合受け部とが完全に係合され閉蓋状態となる一方、スライドボタンが下動位置の時は、突出片がストッパに当接せず、前記スライドボタンを係合解除方向へ操作することにより、係合部材の係合爪と蓋体の係合受け部との係合が解除され開蓋状態となるようにした構成を採用したものである。

【0010】

本考案により、スライドボタンを指でスライドさせるというワンタッチアクションで、スライドボタンの突出片とストッパとの当接によりロックされている係合部材の固定を解除すると共に、そのままスライドボタンにかかった指が自然と係合部材を係合解除方向に押すことになり、蓋体の係合が解除されて開蓋状態とすることができる。

【考案の効果】

【0011】

以上の構成による本考案によれば、飲料容器を手を持ちながら親指をスライドボタンに当てて引き下げるという自然な動作を行うだけで、係合部材の固定解除と係合部材の蓋体への係合解除とを行えるので、片手の指 1 本でスライドボタンをスライドさせるという簡単な操作で飲料容器の蓋を開けることができる。

【0012】

また、指の感触等でスライドボタンを探り当てるだけでよく、操作時に飲料容器の 2 つの操作部位を注視したり指で探り当てたりする必要が無く、更に、スライドボタンをスライドさせるというワンタッチアクションのみでよく、異なる 2 つの動作のために注意を払う必要がないので、ジョギング、ウォーキング、サイクリング等の運動途中で飲料容器を使用する際にも危険が生じることがない。

【考案を実施するための最良の形態】

【0013】

以下、本考案を飲料容器に適用した各形態例を、図面に基づいて説明する。図 1 乃至図 3 は、本考案の飲料容器の一例を示すもので、飲料容器 1 は、合成樹脂製又は金属製の容

10

20

30

40

50

器本体 2 と、該容器本体 2 の上部に装着される合成樹脂製の栓体 1 0 と、該栓体 1 0 の上部を覆う蓋体 2 0 からなる。

【0014】

容器本体 2 は、有底で上部に開口部 3 を有する筒状体であって、該筒状体の内部に飲料液体を収納するものであり、開口部 3 付近は円筒状の上部筒状体 4 となっている。栓体 1 0 は、容器本体 2 の上部筒状体 4 に外嵌装する程度の大きさで下部開放の筒状体 1 1 と、この筒状体 1 1 の上部を覆う天板 1 2 と、天板 1 2 上面に筒状体 1 1 より小径の筒状で筒状体 1 1 と導通する飲み口 1 3 が設けられている。

【0015】

容器本体 2 に対する栓体 1 0 の取り付けは、上部筒状体 4 の外面に設けられたねじ部 5 に、栓体 1 0 の筒状体 1 1 の内側に設けられたねじ部 1 4 を螺合することで行われ、筒状体 1 1 の下端が容器本体 2 の鐳部 6 に当接する付近まで締め付けて固定され、栓体 1 0 における天板 1 2 下面の周辺部に設けられたリング状のボトルパッキン 1 5 が容器本体 2 の上部筒状体 4 の上端部に当接することで容器本体 2 と栓体 1 0 は水密状に接続される。

【0016】

栓体 1 0 に対する蓋体 2 0 の取り付けは、天板 1 2 の上面端部に設けられたヒンジ 1 6 を中心に蓋体 2 0 が回動自在に取り付けられており、蓋体 2 0 が栓体 1 0 の上側に重なったとき、蓋体 2 0 に設けられたパッキン 2 1 が栓体 1 0 の飲み口 1 3 を水密状に閉鎖する閉蓋状態となるが、ヒンジ 1 6 には開放機構 1 7 としてバネ 1 7 a が設けられ、蓋体 2 0 を栓体 1 0 から引き離して飲み口 1 3 の閉鎖を解除する開蓋状態となる力が付勢されている。

【0017】

また、蓋体 2 0 と栓体 1 0 には、パッキン 2 1 が飲み口 1 3 を閉鎖する状態を維持するためのロック機構 3 0 が設けられており、このロック機構 3 0 は、前記蓋体 2 0 のヒンジ 1 6 の反対側に設けられた係合受け部 2 2 と、前記栓体 1 0 の外面部にピン 3 2 により軸支され、一方端に設けた係合爪 3 3 が閉状態の蓋体 2 0 の係合受け部 2 2 と係合状態及び係合解除状態とにシーソー状に回動する係合部材 3 1 と、この係合部材 3 1 の外面側に対して上下方向に摺動可能に取り付けられたスライドボタン 4 0 とからなる。

【0018】

図 4 は係合部材 3 1 を示すもので、栓体 1 0 へ軸支されるピン 3 2 より下側で栓体 1 0 との間に圧縮したコイルバネ 3 4 を挟んで取り付けられることで、コイルバネ 3 4 の伸び力によりピン 3 2 の上側では係合爪 3 3 が蓋体 2 0 側に付勢されており、係合爪 3 3 が閉蓋状態にある蓋体 2 0 の係合受け部 2 2 への係合が保持される。

【0019】

図 5 はスライドボタン 4 0 を示すもので、前記係合部材 3 1 を完全に覆う程度の大きさで係合部材 3 1 の外側に摺動自在に取り付けられ、係合部材 3 1 に対する摺動機構は、係合部材 3 1 の長さ方向に沿って設けられた 2 つのスライド溝 3 5 に、スライドボタン 4 0 のスライドガイド 4 1 が嵌合することで、係合部材 3 1 に対してスライド溝 3 5 に沿って上動位置から下動位置までの摺動が自在となっている。

【0020】

また、係合部材 3 1 のピン 3 2 より下の位置には貫通穴 3 6 が開けられ、この貫通穴 3 6 にスライドボタン 4 0 に設けられた突出片 4 2 がスライドボタン 4 0 の係合部材 3 1 に対するスライドを許容しつつ通っており、スライドボタン 4 0 の上動位置ではこの突出片 4 2 の先端部が栓体 1 0 の表面側に突出したストッパ 1 8 に当接することで、スライドボタン 4 0 の栓体 1 0 側への押し込みを止めており、スライドボタン 4 0 及び係合部材 3 1 が係合爪 3 3 が蓋体 2 0 の係合受け部 2 2 への係合が解除される方向へのピン 3 2 を中心とした回動を阻止している。

【0021】

また、係合部材 3 1 の表面側に水平方向に設けた凸条 3 7 にスライドボタン 4 0 の裏面側に水平方向に設けた凸条 4 3 が乗り越えたところでスライドの最上端の上動位置となり

10

20

30

40

50

、凸条 37 と凸条 43 との干渉によりスライドボタン 40 の上動位置を保持している。

【0022】

指をスライドボタン 40 に押し当てて係合部材 31 の凸条 37 とスライドボタン 40 の凸条 43 の嵌合に抗してスライドボタン 40 を上動位置から下動位置までスライドさせると、スライドボタン 40 の突出片 42 も下方向にスライドし、上動位置から下動位置の途中で突出片 42 の先端部が栓体 10 のストッパ 18 から外れて突出片 42 の栓体 10 側への移動は自由になり、スライドボタン 40 と共にピン 32 を中心とした係合部材 31 下側の栓体 10 側への回動が許容され、この回動により係合部材 31 のピン 32 より上側にある係合爪 33 が蓋体 20 の係合受け部 22 との係合を解除する方向に移動可能となる。

【0023】

この場合は、指に入れた力により自然とスライドボタン 40 と共に係合部材 31 のピン 32 より下側を押すことになり、そのままスライドボタン 40 と係合部材 31 を回動させることとなるので、蓋体 20 を開けるための係合部材 31 の固定機構の解除と係合解除方向への移動が指の 1 つの動作で可能となる。

【0024】

この考案の飲料容器 1 は上記のような構成であり、この飲料容器 1 のロックを解除し開放する動作を説明する。

【0025】

まず、図 6 は蓋体 20 が栓体 10 に対して閉じてロックされた状態を示しており、蓋体 20 は、ヒンジ 16 におけるバネ 17a の力に抗して閉じられて、ヒンジ 16 の反対側にあるスライドボタン 40 は上動位置にスライドしており、蓋体 20 の係合受け部 22 が係合部材 31 の上端の係合爪 33 に係合して閉蓋状態を保持しており、スライドボタン 40 の突出片 42 が栓体 10 のストッパ 18 に当接することで、係合部材 31 の係合爪 33 は蓋体 20 側の係合受け部 22 への係合を解く方向への回動が阻止されている。

【0026】

また、スライドボタン 40 の凸条 43 が係合部材 31 の凸条 37 の上側に嵌り込んでスライドボタン 40 が下がらないようにこの位置を保持しているため、係合爪 33 と係合受け部 22 の係合が確実に保持され、不用意にスライドボタン 40 がスライドして蓋体 20 が意図しない状態で開くといったことがない。

【0027】

次に、飲料を飲むために蓋体 20 を開ける際は、飲料容器 1 を持ちながら、例えば親指の腹をスライドボタン 40 に当て、指に下向きの力を加えてスライドボタン 40 を下に引き下げようと力を加え、スライドボタン 40 の凸条 43 が係合部材 31 の凸条 37 を乗り越えて係合部材 31 に対して下側にスライドし、図 7 の状態となる。

【0028】

上記図 7 の状態となると、スライドボタン 40 と一体の突出片 42 も下方にスライドし、その先端部が栓体 10 のストッパ 18 に当接しない位置となる。すると、スライドボタン 40 を下に引き下げるためにスライドボタン 40 を押し付けていた指の力で、図 8 に示すように、コイルバネ 34 に力に抗してピン 32 より下側で自然とスライドボタン 40 と係合部材 31 とが栓体 10 側に押し付けられて回動することになり、その結果、係合爪 33 の係合受け部 22 への係合が解除されることになる。

【0029】

係合受け部 22 への係合爪 33 の係合が解除された蓋体 20 は、ヒンジ 16 のバネ 17a の力により自動的に栓体 10 から離れる方向への力が付勢いされているので、図 9 に示すように栓体 10 の飲み口 13 から離れてゆく。

【0030】

その後、スライドボタン 40 に添えた指を離すと、図 10 のように、スライドボタン 40 と係合部材 31 はコイルバネ 34 の力により指で押される前の元の位置に戻り、この状態で、飲料容器 1 を手に持ちながら飲み口 13 を下向きにして飲料容器 1 内の飲料を飲むことができる。

10

20

30

40

50

【0031】

使用後は、手で蓋体20を栓体10に被せるようにヒンジ16を中心に回転させて閉じ、蓋体20の係合受け部22をロック機構30の係合爪33に当接させてそのまま上から押し込むと、係合受け部22と係合爪33との当接面の傾斜により、係合受け部22が外側に押されてコイルバネ34を圧縮しながら係合部材31が回転し、係合受け部22が係合爪33の下側に潜り込むと、コイルバネ34の力により係合部材31は元に戻り、係合受け部22と係合爪33の係合が行われ、蓋体20は栓体10に対して閉蓋状態を維持できるようになる。なお、この状態は図7と同じ状態である。

【0032】

更に、指をスライドボタン40にかけて、スライドボタン40を栓体10側に押し込まないように注意しながら、例えば、スライドボタン40の上側を押さえながら、上方向にスライドさせ、スライドボタン40側の凸条43を係合部材31の凸条37を乗り越えさせれば、スライドボタン40は上動位置で固定され、スライドボタン40の突出片42が栓体10のストッパ18に当接し、スライドボタン40及び係合部材31の回転による係合爪33の係合受け部22からの係合解除を阻止し、不用意に蓋体20が開くのを防止できる。なお、この状態は図6と同じ状態である。

【0033】

なお、係合部材31の係合爪33と蓋体20の係合受け部22の材質を、復元性、弾力性のある材質としておけば、図10の状態から蓋体20を閉める際、前もってスライドボタン40を上端部までにスライドさせて係合部材31の回転を防止させてから、蓋体20を閉めても、係合爪33や係合受け部22の弾性変形により係合部材31の回転なしに係合受け部22が係合爪33の下側に潜り込み、そのまま係合が保持されるようになる。

【0034】

なお、本考案の実施形態の飲料容器において、図2に仮想線で示すように、冷蔵庫等で冷却した保冷材60を容器本体2内に吊持するようにすることもできる。

【図面の簡単な説明】

【0035】

【図1】この考案の飲料容器の一部切欠右側面図である。

【図2】この考案の飲料容器の斜視図である。

【図3】この考案の飲料容器の正面図である。

【図4】係合部材を示すもので（A）は正面図、（B）は中央縦断面図、（C）は背面図である。

【図5】スライドボタンを示すもので（A）は正面図、（B）は中央縦断面図、（C）は背面図である。

【図6】この考案の飲料容器の開放操作を示す一部切欠要部側面図である。

【図7】この考案の飲料容器の開放操作を示す一部切欠要部側面図である。

【図8】この考案の飲料容器の開放操作を示す一部切欠要部側面図である。

【図9】この考案の飲料容器の開放操作を示す一部切欠要部側面図である。

【図10】この考案の飲料容器の開放操作を示す一部切欠要部側面図である。

【符号の説明】

【0036】

- 1 飲料容器
- 2 容器本体
- 3 開口部
- 4 上部筒状体
- 5 ねじ部
- 6 鏍部
- 10 栓体
- 11 筒状体
- 12 天板

10

20

30

40

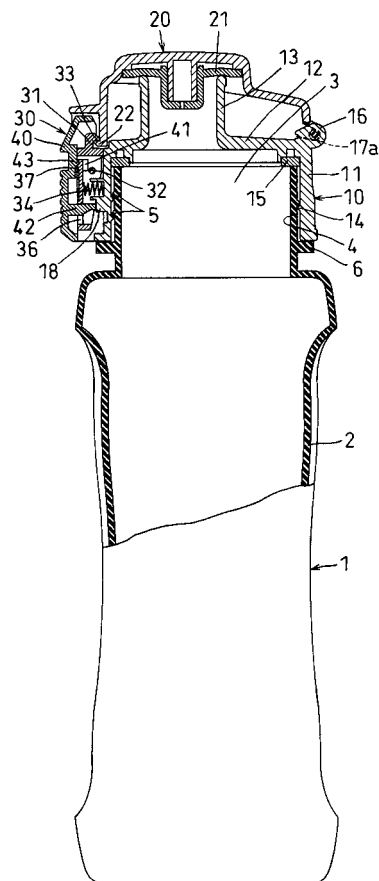
50

- 1 3 飲み口
- 1 4 ねじ部
- 1 5 ボトルパッキン
- 1 6 ヒンジ
- 1 7 開放機構
- 1 7 a バネ
- 1 8 ストップパ
- 2 0 蓋体
- 2 1 パッキン
- 2 2 係合受け部
- 3 0 ロック機構
- 3 1 係合部材
- 3 2 ピン
- 3 3 係合爪
- 3 4 コイルバネ
- 3 5 スライド溝
- 3 6 貫通穴
- 3 7 凸条
- 4 0 スライドボタン
- 4 1 スライドガイド
- 4 2 突出片
- 4 3 凸条

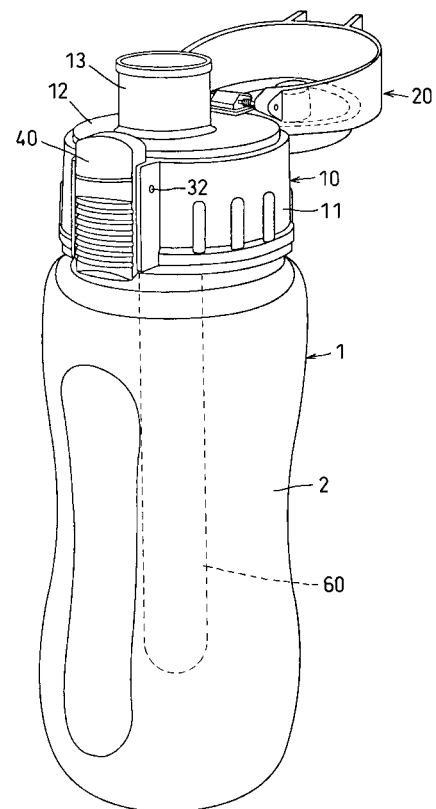
10

20

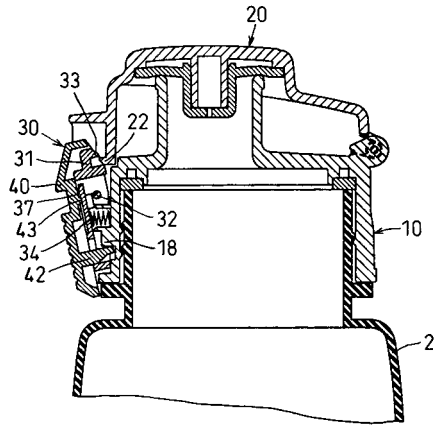
【図 1】



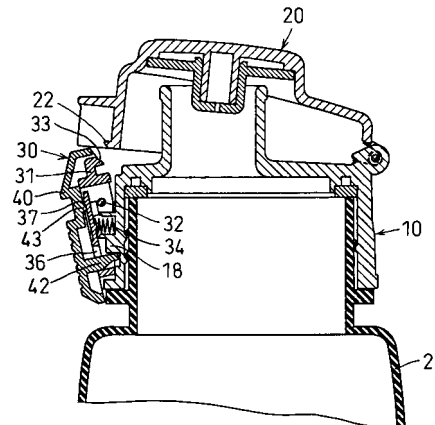
【図 2】



【図 8】



【図 9】



【図 10】

